

三門

この巨大な門は 1622 年に将軍の大工頭によって建造されました。この門は増上寺創建時から残っている唯一の建造物です。この門の正式名称である「三解脱門」は、貪欲・瞋恚・無知の三毒からの解放を意味しています。

高さ 21 メートルの門の二階部分（現在一般には公開されていません）には、釈迦如来の像が安置されており、この像のかたわらにはそれぞれ異なる表情を浮かべている二菩薩と十六羅漢（釈迦の最も献身的な弟子）が控えています。これらの像は江戸時代（1603-1867）初期の作であると考えられています。

下層に寄棟屋根、上層に切妻屋根を持つこの門の凝ったつくりは、仏教が日本に伝来した 6 世紀頃の中国の建築様式を参考にしたものです。二階部分の欄干のシンプルなデザインは、日本的な建築美学を反映しています。鮮やかな朱塗りのこの門は、江戸（現在の東京）を代表するランドマークのひとつでした。

三解脱門には、通常お寺の入り口に置かれている 2 体の恐ろしい顔をした仁王像がありません。これは、増上寺が浄土宗の寺院であるためです。浄土宗は救いを求めてやってくる全てのものを歓迎しているのです。

10 年間かけて行われる三門の改修工事は、2025 年 4 月に着工が予定されています。